

東部方面斎場（仮称）整備についての説明会について（概要）

1 開催日時

第1回：令和5年1月27日（金） 午後6時30分～午後7時10分

第2回：令和5年1月28日（土） 午後2時～午後3時05分

2 開催場所

生麦地区センター（鶴見区）体育室

3 参加者数

第1回：24人

第2回：12人

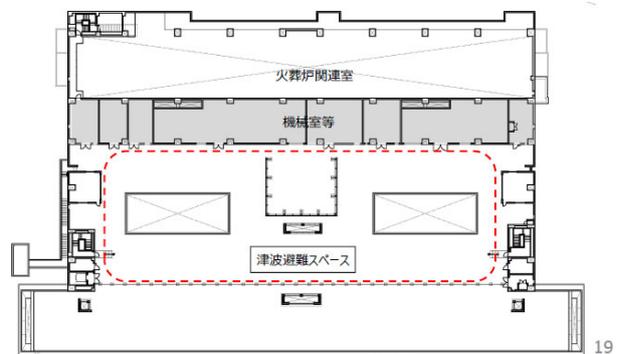
4 質疑内容

1月27日（金）

(1) 避難スペースについて

Q1 災害時の避難について、屋上にヘリコプターが発着できるようなスペースはあるのか。

A 屋上の半分が機械室と火葬炉室の上の煙突等があります。また、避難スペースは面積的に約1,000平方メートルありますが、真ん中に中庭の吹き抜け部分があるなど、ヘリコプターの発着場を設けることは難しいと考えます。



Q2 屋上避難スペースの運用について周知してほしい。

A 津波避難スペースは屋外階段で直接上がることができ、斎場が閉まっている時も利用することができます。

斎場が開いている時間帯では施設内への避難も可能であり、今後、運用方法等を整理し、説明させていただきたいと考えております。

(2) 工事スケジュール等について

Q あらかじめ工事のスケジュール等を開示してほしい。

A 周囲の交通渋滞その他、できるだけご迷惑をかけないようにしたいと考えております。工事業者が決まりしだい、施工工程その他を整理しまして、周辺の方々へ説明する機会を設けたいと考えております。

(3) 霊安室について

Q 霊安室の数が10体で足りるのか。

A 霊安室は横浜市での斎場では初めて設置となるため、検討に際し隣接する川崎市斎場の霊安室稼働状況を調査しました。その時点で3割程度の稼働状況との調査結果から東部方面斎場（仮称）では約5体程度のニーズがあると想定し、さらに今後遺体保管のニーズが高まった場合に備え、10体分の整備としたものです。

(4) 土壌汚染について

Q 土壌汚染調査の結果を踏まえ、汚染土壌の処理をいつ頃からするのか。

A 今回、設計を進める中で「鉛」「砒素」「フッ素」といった埋め立て由来の汚染物質を把握しました。工事を始める前の土地を管理する段階では、立ち入りや飛散防止の対応を行います。また、汚染土壌の処理が必要となるのは、地下駐車場の整備により掘削土の搬出時と想定しており、工事の早い時期に処理が始まると考えております。

(5) 斎場へのアクセスについて

Q 斎場へのアクセスについて、どのように考えているのか。

A 横浜市では4つの斎場を運営しており、比較的駅に近い久保山斎場以外では、公共交通機関ではなく乗用車又はマイクロバスでの来場が多いようです。東部方面斎場（仮称）も立地を考えると、乗用車、マイクロバスでの来場が多くなるかと思っておりますので、それに対応した駐車場の整備を考えております。バスのアクセスについては、運行している事業者とも意見交換をしており、現状ではバス便を増やせるかといったことはまだ分かりませんが、引き続き検討してまいります。

1月28日（土）

(1) 既存斎場の現在の火葬状況等について

Q1 現在の既存斎場の稼働率について。

A 現在の稼働率はほぼ100%となっております。
各斎場、朝の9時から、一番多い時では15時30分まで火葬炉を回しております。一体火葬するのにおよそ2時間ほどかかりますので、一炉をだいたい一日3回転から4回転でフルに回している状況ではございますが、朝の9時の段階でもほとんど空くことはなく直ぐに枠が埋まってしまうという状況です。
ここ数年は新型コロナで亡くなった方の火葬を別枠で行っていたこともあり、その部分が若干埋まらなかつたりしたこともありましたが、現在はほぼ100%で稼働しています。

Q2 死亡者数と火葬実績数に1,000人ほど差があるが、その差の分についてはどうしているのか。

A 死亡者数と火葬実績数の差については、年度が少しずれたり、またがったりしていることにより、必ずしも死亡者数と実績数が一致することではありませんが、横浜市以外の近隣の自治体の火葬場で火葬されている方も一定割合いらっしゃいます。

Q 3 新斎場を作ることで火葬待ちは解消されるのか。

A 5年に一度行われている国勢調査を基に横浜市では将来人口推計を行い、毎年の死亡者数の予測をしております。この将来人口推計に基づくと、東部方面斎場（仮称）の16炉が加わることで、あと30年間は横浜市の死亡者が増えても十分に対応できるという想定をしています。

Q 4 5年後、10年後、人口が減ることを考えると過剰な施設になるのではないか。

A 将来的には少子化の影響で亡くなる方も減ってくるのではないかと話していますが、将来人口推計では30年以上先の状況であり、当面は設備が過剰ということにはならないと考えています。また、既存の4斎場についても年々老朽化が進んでおり、東部方面斎場（仮称）ができることで各斎場の長期的な修繕の計画も立てながら運営していきたいと考えております。

Q 5 東部方面斎場（仮称）において年間で火葬できる数はどのくらいなのか。

A 季節により死亡者数の違いやメンテナンス等の休場などがあり、年間での火葬数は単純に把握できませんが、一番死亡者数が多い1月を参考にすると、東部方面斎場（仮称）では1日に最大56火葬が可能で、27日稼働すると月に約1,500火葬が可能です。

Q 6 他の既存斎場が老朽化して使えなくなり、困るということはないのか。

A 老朽化が進んでいるところもございますが、まだ10年、20年は大丈夫だと思われれます。東部方面斎場（仮称）の整備後は、各斎場とも繁忙期以外に修理等の期間をいただき、適切に維持していきたいと考えております。

Q 7 市内・市外問わず広域で考えた場合需要に対応できるのか、市外からの火葬を横浜市で行うことも考えられるのではないか。

A 自治体の火葬場については、その自治体住民の火葬に対応したものとして建設しております。ただ、その自治体住民以外の火葬についても受け入れは可能ですが、各自治体では、その自治体住民の火葬料は安く、他の自治体住民の火葬料は高くする等、料金で差を設けています。横浜市においては市民の方については1万2千円なのですが、市外からの方については5万円、川崎市については市外の方は6万円等、料金に差をつけていますが、枠が空いていれば受け入れるという対応をしていますので問題ないと考えています。

(2) 斎場へのアクセスについて

Q 1 鶴見区側から車で斎場に行くとき、産業道路を右折できるのか。

A 鶴見区側からの来場ルートについて、現状では産業道路に中央分離帯があります。横浜市としましても鶴見区方面から来る場合は産業道路から東側道路を経由して来場していただきたいと考えております。新しく交差点を作ることは難しい調整で時間が必要なことから、まだ決定はできておりませんが、右折で入れるよう交通管理者と協議を進めていきます。

Q2 アクセスについて、バス便はどうか。

A 横浜市では4つの斎場を運営しており、比較的駅に近い久保山斎場以外では、公共交通機関ではなく乗用車又はマイクロバスでの来場が多いようです。東部方面斎場（仮称）も立地を考えると、乗用車、マイクロバスでの来場が多くなるかと考えております。

バス便については課題であると考えおります。ただ、多くの方が自家用車やマイクロバスで来場することから、需要の問題もありますので引き続き検討してまいります。

(3) 式場の広さについて

Q 50人用ホールが2つあるが、今後家族葬が増えるということを考えると50人用式場は必要ないのではないか。もう少し小さくしたらどうか。

A 葬儀の小規模化の傾向を踏まえ、既存斎場にはない20人用の小さな式場も一つ整備します。また、幅広く対応できるように50人用も準備しました。もし大きな葬儀があれば、つなげて使うことも可能です。

(4) 斎場の設計にあたってのコンセプトについて

Q1 東部方面斎場（仮称）の建物デザインのコンセプトはどんなものなのか。

A 都市部のエリアに建設する斎場として、容積を多く使った、四角い感じの建物となりました。この斎場は海沿いに建っておりますので、火葬炉を2階に配置しまして、2階に車寄せを配置しております。これが一つの特徴だと思われれます。2階の車寄せは屋外となりますが、火葬にいらした方を迎え入れる場所として、静粛な空間を維持しつつ、空気の流れや光を取り込めるルーバーを設置します。また北部斎場と同規模で、市内で一番多い火葬炉を設けておりますので、多くの方が来場されますが、火葬炉を横一列に並べ、右と左、二つのエリアに動線を分けることで、混雑を緩和する設計としています。

Q2 設計者による全体的なコンセプトは何か。

A スムーズで厳粛な葬送を可能にする斎場として、車や会葬者の動線の工夫がコンセプトとして挙げられています。また、環境性能についても1つのコンセプトとして取り組んでいます。